

平成19年度常緑果樹関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成19年度常緑果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成19年11月13日(火)～14日(水)にメルパルク大阪において開催された。

この検討会には、試験場関係者33名、委託関係者21名ほか、計62名の参集を得て、除草剤5薬剤(19点)、

生育調節剤5薬剤(42点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成19年度 常緑果樹関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 除草剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類 新・継 の別	試験担当場所 <>は試験中など (数)	試験設計 [対象雑草; ねらい] ・処理時期 ・薬量・mL<水量L>/10a ・処理方法	判定	判定内容
1. MON-96A液 グリホサートアンモニウム塩 41% [日産化学工業]	カンキョ	適用性 継続	鹿児島大学 熊本農研天草<秋> (2)	[マルバツツカサ] ・夏期および秋期 雑草生育期(草丈30cm以下) ・500mL<25, 100> 1000mL<25> ・茎葉処理 ・展着剤不要 対 ラウンドアップ ハイロード 液 500mL<50>	実・継	実) [カンキョ: 雑草全般] ・春～夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) 一年生雑草対象; 250～500mL/10a <25～50L/10a(専用ノズル 使用), 50～100L/10a> 多年生雑草対象; 500～1000mL/10a <25～50L/10a(専用ノズル 使用), 50～100L/10a> スギナ対象; 1500～2000mL/10a <25～50L/10a(専用ノズル 使用)> マルバツツカサ対象 草丈30cm以下 500～1000mL/10a <25～50L/10a(専用ノズル 使用), 50～100L/10a> 1回処理 草丈60cm以下 2000mL/10a<50L/10a> 1回または2回処理 茎葉処理 ・秋冬期、 雑草生育期(草丈30cm以下) 250～500mL/10a <25～50L/10a(専用ノズル 使用), 50～100L/10a> 茎葉処理。 継) ・マルバツツカサに対する秋期処理での 効果の確認

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 < >は試験中など (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
2. NC-622液 グリホサートカリウム塩 48% [日産化学工業]	カンキ	適用性 (H18処 理翌年 の効果 確認)	千葉暖地園研 大阪食とみどり 山口大島柑試 <徳島果樹研> 熊本農研果樹 (4)	[スギナ] ・ スギナ生育期 (草丈20~25cm) ・ 1500mL<25, 50, 100> 2000mL<25> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップ液 2000mL<50>	実	実) [カンキツ: 雑草全般] ・ 春~夏期 雑草生育期 (草丈30cm以下) 一 年生雑草対象: 200~500mL/10a <25~50L/10a (専用ノズル 使用), 50~100L/10a> 多年生雑草対象: 500~1000mL/10a <25~50L/10a (専用ノズル 使用), 50~100L/10a> スギナ対象: 1500~2000mL/10a <25~50L/10a (専用ノズル 使用), 50~100L/10a> [カンキツ: マルバツコサ] ・ 春~秋期 雑草生育期 (草丈30cm以下) 500~1000mL/10a <25~50L/10a (専用ノズル 使用), 50~100L/10a> 雑草生育期 (草丈60cm以下) 1000~1500mL/10a <25~50L/10a (専用ノズル 使用), 50~100L/10a> ・ 茎葉処理
		適用性 (H18秋 処理)	宮崎総農試亜熱帯 (1)	[マルバツコサ] (夏期処理) ・ 夏期 (草丈30cm以下) ・ 500, 1000mL<25, 100> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 (秋期処理) ・ 秋期 (草丈60cm以上) ・ 1000, 1500mL<25, 100> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 参) NC-622液 1000mL<50>		
3. NH-0077フロアブル ピラフルフェンエチル 0.16% 、グリホサートイソプロピルアミン 塩 30% [日本農業]	カンキ	適用性 新規	千葉大環境健康ファ ーブル 鹿児島大学 熊本農研天草 (3)	[雑草全般 (マルバツコサ, ヤブガラシ, アメリカザサ ガサ)] ・ 春期および夏期 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 600, 1000mL<100> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップハイロード液 1000mL<100>	実・ 継	実) [カンキツ: 雑草全般] ・ 春~夏期、 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 400~600mL/10a <100L/10a> ・ 茎葉処理 継) マルバツコサ, ヤブガラシ, アメリカザサ ガサ等に対する効果の確認
	カンキ	薬害 新規	神奈川農技根府川 福岡農総試 (2)	[薬害試験] ・ 春期及び夏期 (2回処理) 2000mL→2000mL<100> 土壌処理 展着剤不要 ・ 春期または夏期 (1回処理) 5000mL<100> 茎葉処理 展着剤不要 ・ 春期または夏期 (1回処理) 100倍 樹幹処理 展着剤不要		
4. NNKHX100カンキ ピラフルフェンエチル 0.0016% グリホサートイソプロピルアミン 塩 0.3% [日本農業]	カンキ	適用性 新規	千葉大環境健康ファ ーブル 鹿児島大学 神奈川農技根府川 広島農技 高知農技果試 長崎果試 (6)	[雑草全般] ・ 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 60L (希釈せずそのまま散布) ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) サンドーボルト007 400mL<100>	継	継) 効果、薬害の確認

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 < >は試験中など (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・処理時期 ・薬量g・mL<水量L>/10a ・処理方法	判 定	判定内容
5. ターハ [®] 水和水和 ターハ [®] 80% [テ [®] ュホ [®] ソファームソリューション]	カンキツ	薬害 継続 (H18 および H19)	福岡果樹苗木 (1)	[薬害試験] ・2回処理; 春期(4月中旬) →夏期(6月中旬) 300g<150> 600g<150> 土壌処理 ・1回処理;夏期(6月中旬以降) 900g<150> 土壌処理	実 ・ 継	実) [カンキツ:一年生雑草] ・雑草発生前または雑草生育期 ・200~300g<150~200L> ・土壌処理または茎葉処理 継) 枝葉への薬害の確認

B. 生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 < >は試験中など (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・処理時期 ・薬量g・mL<水量L>/10a ・処理方法	判 定	判定内容
1. AKD-8147水溶 1-ナフタレン酢酸ナトリウム 22% [ア [®] カネショウ]	ウンシュウミ かん (加温 栽培)	適用性 継続	<愛知農総試蒲郡> 大分果樹研(中間) (2)	[結果母枝充実・着果促進] ・夏秋梢萌芽時および再萌芽時 2~3回 ・1000~2000倍 ・立木全面散布	継	[ウンシュウミかん;結果母枝の充実、着 花促進] 継) 効果、薬害の確認
		適用性 (H18)	果樹研カンキツ(口之 津) 三重大 愛知農総試蒲郡 佐賀果試 (4)	[結果母枝充実・着果促進] ・夏秋梢萌芽時および再萌芽時 2~3回 ・1000~2000倍 ・立木全面散布		
	ウンシュウミ かん	作用性 (H18未 提出分)	三重大 (1)	[着花、結果促進] ・生理的花芽分化期前後 ・1000倍 散布回数一任 立木全面散布	保 留	[ウンシュウミかん;着花、結果促進]
		適用性 新規	<果樹研カンキツ(口之 津)> <三重大> <広島農技> (3)	[着花、結果促進] ・生理的花芽分化期前後 ・1000, 2000倍 2~3回 ・立木全面散布		
	ウンシュウミ かん	適用性 継続	和歌山果試(中間) (1)	[間引き摘果] ・二次生理落果期(満開20~40 日後) ・1000~1500倍 ・立木全面散布	実 ・ 継	実) 従来どおり [ウンシュウミかん;間引き摘果] ・二次生理落果発生期 ・1000~1500倍 ・立木全面散布または枝別散布 継) 効果の確認
	天草	適用性 新規	佐賀果試 (1)	[夏秋梢発芽防止] ・新梢萌芽期および再萌芽期 ・1000, 2000倍 2~3回 ・立木全面散布	継	[天草;夏秋梢発芽防止] 継) 効果、薬害の確認
	せとか	適用性 新規	<山口大島柑試> (1)	[夏秋梢発芽防止] ・新梢萌芽期および再萌芽期 ・1000, 2000倍 2~3回 ・立木全面散布	継	[せとか;夏秋梢発芽防止] 継) 効果、薬害の確認
		適用性 (H18自 主)	山口大島柑試 (1)	[夏秋梢発芽防止] ・新梢萌芽期 ・500, 1000倍 1回 ・立木全面散布		

B. 生育調節剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類・継 続の別	試験担当場所 < >は試験中など (数)	試験設計 [対象雑草;ねらい] ・処理時期 ・薬量g・mL<水量L>/10a ・処理方法	判定	判定内容
AKD-8147水溶	不知火	適用性 新規	<果樹研カンキツ(口之津)> <愛媛果試> <熊本農研果樹> (3)	[夏秋梢発芽防止] ・新梢萌芽期および再萌芽期 ・1000, 2000倍 2~3回 ・立木全面散布	保留	[不知火;夏秋梢発芽防止]
		適用性 (自主)	福岡農総試(中間) (1)	[夏秋梢発芽防止] ・新梢再萌芽期 ・1000倍 1回 ・立木全面散布		
	はるみ	適用性 新規	長崎果試(中間) (1)	[夏秋梢発芽防止] ・新梢萌芽期および再萌芽期 ・1000, 2000倍 2~3回 ・立木全面散布	保留	[はるみ;夏秋梢発芽防止]
	ボンカン	適用性 新規	香川農試府中 (中間) (1)	[夏秋梢発芽防止] ・新梢萌芽期および再萌芽期 ・1000, 2000倍 2~3回 ・立木全面散布	保留	[ボンカン;夏秋梢発芽防止]
	不知火	作用性 (H18未 提出分)	果樹研カンキツ(口之津) 鹿児島大学 熊本農研果樹 愛媛果試 (4)	[果実肥大促進] ・果実肥大期 2回 (7~8月の摘果後) ・4000, 8000倍 ・立木全面散布 または枝別散布	保留	[不知火;果実肥大促進]
		適用性 新規	<果樹研カンキツ(口之津)> <愛媛果試> (2)	[果実肥大促進] ・果実肥大期(7~8月*) *摘果直後 ・4000, 8000倍 ・1回散布, 2回散布 ・立木全面散布		
	河内晩柑	適用性 (H18自 主)	愛媛果試 (1)	[後期落果防止] ・着色初期およびその2週間後 ・1000, 2000倍 2回 ・立木全面散布	継	[河内晩柑;後期落果防止] 継) 効果、葉害の確認
2. RIC-1液 海藻糖ゼネート [ロイヤル インダストリーズ]	ウンシュウミ カン	適用性 継続	<広島農技> <山口大島柑試> <愛媛果試みかん研 > (3)	[隔年結果軽減] ・A区: 2-3月原液1L/10a(土壌 処理*)→4月上中、5月上中、6 月上中、12月1000倍各1回(茎 葉処理) ・B区: 3月上中、4月上中、5月 上中、6月上中、12月1000倍各1 回(茎葉処理)	継	[ウンシュウミカン;隔年結果軽減] 継) 効果、葉害の確認
		適用性 (H18未 提出分)	山口大島柑試 (1)	[隔年結果軽減] ①土壌と葉面への組合せ処理 ・2月 1L:土壌処理 →4, 5, 6月 2000倍:葉面散布 →12月 1000倍:葉面散布 (計5回処理) ②葉面への反復処理 ・3, 4月 1000倍:葉面散布 →5, 6月 2000倍:葉面散布 →12月 1000倍:葉面散布 (計5回処理)		
	ウンシュウミ カン	適用性 継続	長崎果試 (1)	[生理落果防止] ・満開後 ・1000, 2000倍(10日間隔3回) ・茎葉処理	継	[ウンシュウミカン;生理落果防止] 継) 有効な処理時期と薬量につい て

B. 生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 < >は試験中など (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
RIC-1液	はるみ	適用性 継続	<広島農枝三原> <山口大島柑試> <愛媛果試みかん研> <愛媛果試岩城> <佐賀果試> <宮崎総農試亜熱帯> (7)	[樹勢回復、隔年結果防止] ・ A区; 2-3月原液1L/10a (土壌 処理) →4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12月2000倍各1回 (茎葉処 理) ・ B区; 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12月2000倍各1回 (茎 葉処理)	継	[はるみ; 樹勢回復、隔年結果軽 減] 継) 効果、葉害の確認
		適用性 (旧18未 提出分)	広島農枝三原 山口大島柑試 愛媛果試岩城 宮崎総農試亜熱帯 (4)	[樹勢回復、隔年結果軽減] ①土壌と葉面への組合せ処理 ・ 2-3月 1L:土壌処理 →4, 5, 6, 8, 10, 12月 3000倍:葉面散布 (計7回処理) ②葉面への反復処理 ・ 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12月 3000倍:葉面散布 (計9回処理)		
	不知火 はるみ	作用性 新規	<果樹研かんき(口之 津)> (1)	[処理量増加による生育、収量、 品質への影響] ・ A区; 2-3月原液1L/10a (土壌 処理) →4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12月2000倍各1回 (茎葉処 理) ・ B区; 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12月2000倍各1回 (茎 葉処理)	—	
3. ジベレリン水溶 ジベレリン 3.1% [日本ジベレリン研究 会]	伊予柑	適用性 継続	愛媛果試 佐賀果試 (2)	[落果防止] ・ ①満開7-10日後 25ppm ②開花始め 25ppm ③開花始め 50ppm ・ 果実散布 (枝別) 注) 500枚以上着葉した枝を試験 区とし、3反復以上	実 ・ 継	実) [かんき: 落果防止] ・ 開花始め-満開 10 日後 ・ 25-50ppm ・ 散布 ・ 効果の確認されたかんき; 温州ミ かん, 伊予柑, 不知火, かんきマンダリン, ボンカン 継) ・ 伊予柑、清見、不知火、かんき について年次変動の確認
	清見	適用性 継続	愛媛果試みかん研 福岡農総試 (2)	[落果防止] ・ ①満開7-10日後 25ppm ②開花始め 25ppm ③開花始め 50ppm ・ 果実散布 (枝別) 注) 500枚以上着葉した枝を試験 区とし、3反復以上		
	不知火	適用性 継続	広島農枝三原 熊本農研果樹 (2)	[落果防止] ・ ①満開7-10日後 25ppm ②開花始め 25ppm ③開花始め 50ppm ・ 果実散布 (枝別) 注) 500枚以上着葉した枝を試験 区とし、3反復以上		
	ボンカン	適用性 継続	香川農試府中 熊本農研天草 (2)	[落果防止] ・ ①満開7-10日後 25ppm ②開花始め 25ppm ③開花始め 50ppm ・ 果実散布 (枝別) 注) 500枚以上着葉した枝を試験 区とし、3反復以上		

B. 生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) 〔委託者〕	作物名	試験の 種 類 新・維 の 別	試験担当場所 〈 〉は試験中など (数)	試 験 設 計 〔対象雑草;ねらい〕 ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
ジベレリン水溶	清見	適用性 新規	〈広島農枝三原〉 (1)	〔花芽抑制による樹勢維持〕 ・ 収穫直後～収穫約1ヶ月後 ・ 25, 50ppm ・ 立木全面散布又は枝別散布 注) 200～300枚程度着葉した枝を 試験区とし、3反復以上	一	
	はるみ	適用性 新規	〈山口大島柑試〉 〈香川農試府中〉 (2)	〔花芽抑制による樹勢維持〕 ・ 収穫直後～収穫約1ヶ月後 ・ 25, 50ppm ・ 立木全面散布又は枝別散布 注) 200～300枚程度着葉した枝を 試験区とし、3反復以上		
	ボンカン	適用性 新規	〈山口大島柑試〉 〈鹿児島農総果樹〉 (2)	〔花芽抑制による樹勢維持〕 ・ 収穫直後～収穫約1ヶ月後 ・ 25, 50ppm ・ 立木全面散布又は枝別散布 注) 200～300枚程度着葉した枝を 試験区とし、3反復以上		
ウンシュウミ カン	ウンシュウ ミカン	適用性 新規	〈愛知農総試蒲郡〉 〈山口大島柑試〉 (2)	〔水腐れ軽減〕 ・ 着色終期 (収穫7日前まで) ・ 0.5, 1ppm ・ 果実散布 (枝別) 注) 50～100果以上、3反復	一	
	はれひ め	適用性 新規	〈佐賀果試〉 (1)	〔水腐れ軽減〕 ・ 着色終期 (収穫7日前まで) ・ 0.5, 1ppm ・ 果実散布 (枝別) 注) 50～100果以上、3反復		
	ボンカン	適用性 新規	〈香川農試府中〉 〈高知農枝果試〉 〈熊本農研天草〉 (3)	〔水腐れ軽減〕 ・ 着色終期 (収穫7日前まで) ・ 0.5, 1ppm ・ 果実散布 (枝別) 注) 50～100果以上、3反復		
	長門ユ ズ柑	適用性 (自主)	山口萩柑試 (2)	〔果皮の緑色維持〕 ・ ①収穫予定約30日前 ・ ②収穫予定約10日前 ・ 10, 50ppm ・ 立木全面散布		
	レモン	適用性 (自主)	愛媛果試 (1)	〔果皮の緑色維持〕 ・ ①収穫予定約30日前 ・ ②収穫予定約10日前 ・ 10, 50ppm ・ 立木全面散布		
	長門ユズ柑	適用性 (自主)	山口萩柑試 (2)	〔果皮の緑色維持〕 ・ ①収穫予定約30日前 ・ ②収穫予定約10日前 ・ 10, 50ppm ・ 立木全面散布	実・ 維	実) [スダチ, カブス; 果皮の緑色維持] ・ 収穫予定10～30日前 ・ 10～50ppm ・ 散布 (果実表面に十分付着する よう) 維) ・ スダチでの年次変動の確認 ・ 長門ユズ柑, レモンでの効果の確認
4. ジベレリン+PDJ 水 溶+液 ジベレリン 3.1% +プロトロジヤスモン 5% 〔日本ジベレリン研究 会, 日本ゼオ〕	ウンシュウ ミカン	適用性 新規	〈愛知農総試蒲郡〉 〈広島農枝〉 (2)	〔花芽抑制による樹勢維持〕 ・ 収穫直後～収穫約1ヶ月後 ・ ①PDJ50ppm+GA10ppm ・ ②PDJ25ppm+GA10ppm 対照: GA25ppm ・ 立木全面散布又は枝別散布 注) 200～300枚程度着葉した枝を 試験区とし、3反復以上	一	

B. 生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・維 の 別	試験担当場所 < >は試験中など (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・ 処理時期 ・ 葉量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
ジベレリン+PDJ 水溶+ 液	はるみ	適用性 新規	<山口大島柑試> (1)	[花芽抑制による樹勢維持] ・ 収穫直後～収穫約1ヶ月後 ・ ①PDJ50ppm+GA10ppm ②PDJ25ppm+GA10ppm 対照: GA25ppm ・ 立木全面散布又は枝別散布 注) 200～300枚程度着葉した枝を 試験区とし、3反復以上		
	ボンカン	適用性 新規	<山口大島柑試> <高知農技果試> (2)	[花芽抑制による樹勢維持] ・ 収穫直後～収穫約1ヶ月後 ・ ①PDJ50ppm+GA10ppm ②PDJ25ppm+GA10ppm 対照: GA25ppm ・ 立木全面散布又は枝別散布 注) 200～300枚程度着葉した枝を 試験区とし、3反復以上		
	ウシユミカン	作用性 新規	愛知農総試蒲郡 山口大島柑試 福岡農総試 (3)	[落果防止] ・ ①満開7～10日後 PDJ50ppm+GA10ppm ②満開7～10日後 PDJ25ppm+GA10ppm ③開花始め PDJ50ppm+GA10ppm ④開花始め PDJ250ppm+GA10ppm ・ 枝別散布 注) ウシユミカンでは300枚以上、中 晩柑では500枚以上着葉した枝が ある樹を使用し3反復	—	
清見		作用性 新規	愛媛果試みかん研 (1)	[落果防止] ・ ①満開7～10日後 PDJ50ppm+GA10ppm ②満開7～10日後 PDJ25ppm+GA10ppm ③開花始め PDJ50ppm+GA10ppm ④開花始め PDJ25ppm+GA10ppm ・ 枝別散布 注) ウシユミカンでは300枚以上、中 晩柑では500枚以上着葉した枝が ある樹を使用し3反復	—	
	ウシユミカン	適用性 継続	<山口大島柑試> <徳島果樹研> <佐賀果試> <長崎果試> (4)	[樹上完熟みかんの浮皮軽減] ・ 樹上完熟収穫の3ヶ月前 (着色 開始前、蜜尻前) ・ ①PDJ50ppm+GA5ppm ②PDJ50ppm+GA3.3ppm ③PDJ50ppm+GA5ppm ④PDJ50ppm+GA3.3ppm ・ 果実を中心に全面散布	—	

B. 生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 くゝは試験中など (数)	試 験 設 計 [対象雑草:ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
ジ'ベ'レリン+PDJ 水溶液 [委託者]	ワシウミ かん	適用性 (H18未 提出分)	静岡柑試伊豆 山口大島柑試 愛媛果試 徳島果樹研 熊本農研果樹 (5)	[浮皮軽減] ・ 収穫予定3ヶ月前 ・ PDJ+ジ'ベ'レリン: 50ppm+5ppm, 50ppm+3.3ppm, 25ppm+5ppm, 25ppm+3.3ppm ・ 果実を中心に全面散布 ・ 展着剤不要	実	実) [ワシウミかん:浮皮軽減] ・ 収穫予定3ヶ月前 ・ ジ'ベ'レリン3.3~5ppm+PDJ25~ 50ppm ・ 散布(果実表面に十分付着する よう) 注) ・ 使用時に混用する ・ 着色が遅延することがあるた め、貯蔵用のワシウミかんで使用する ・ 処理により薬斑を生じることが ある
5. AKD-8083EW MCPB 20% [ア'カネショウ]	ア'ラット レンジ	適用性 自主	愛媛果試みかん研 (1)	[へた落ち防止] ・ 収穫開始予定日の20日前 ・ 1000, 2000倍 ・ 立木全面散布	実	実) 従来どおり

